

つくしんぼ

平成24年 第159号
新年号
北里研究所病院だより



特集 腫瘍センター P2

手術療法／化学療法
放射線療法／局所療法
免疫療法／がん相談
緩和ケア

新年のご挨拶.....	P1
感染症予防のお話.....	P1
外来の移設について.....	P4
糖尿病フェスティバル を開催しました.....	P4

目次

新年のご挨拶



病院長

渡辺 憲明

皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年わが国は、未曾有の大災害に見舞われていました。被災地の復興が円滑に進むことを祈っております。他方、世界に目を向けると、欧州を中心とする経済の混乱が生じています。日本のそして世界の先行きが心配されます。

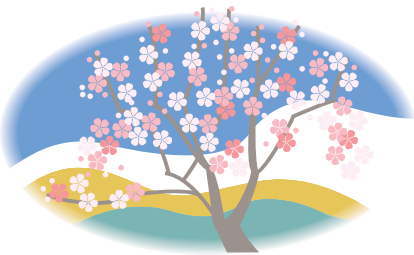
国内では、少子高齢化が急速に進み、医療体制にも変化が求められ、医療を取り巻く環境も厳しさを増しております。このような状況下ではありますが、私どもは病院理念の「心ある医療」の実践に努め、「選ばれる病院・信頼される病院」となるべく一層の努力をして参ります。

当院で力を入れているものの一つに「がん診療」があります。予防から緩和までのすべての局面にわたり、あたたかい医療を提供することを目指してきましたが、その実績を評価され、平成22年度に東京都認定がん診療病院に認定されました。その後も引き続き体制の整備を行ってまいります。その一環として23年度には放射線治療機器の更新を行い、本年4月より運用を開始します。放射線治療は、がんの治療法のうち手術療法、化学療法と並んで重要なものです。患部へ集中的に放射線を照射することができる、定位放射線治療があります。これにより精密で効率的な治療を行うことができます。

そして、本年5月には電子カルテを導入し、データの共有、診療の効率化を図ります。このように新しいものを取り入れながら、診療科や職種の間垣根のない当院の特色を生かし、今後も良質な医療が提供できるよう努めて参ります。

さて、ご存知のとおり、平成20年に北里研究所と北里学園との統合が行われ「学校法人北里研究所」となりました。そして現在、学校法人北里研究所では平成24年の北里大学50周年、平成26年の北里研究所100周年に向け、周年事業を行っております。北里柴三郎展の開催をはじめとして、白金キャンパスの整備、記念行事の開催などが今後順次行われます。これを機に北里研究所病院を軸に東洋医学研究所と連携し統合医療の推進を図り、臨床薬理研究所とも共同し臨床研究のさらなる発展を目指しております。

今後皆様にも「満足していただける病院」を目指し進んでいくことをお約束するとともに、本年が皆様にとって良い年であることをお祈りいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



感染症予防のお話／病原性と抵抗力

感染管理室 草次 かおり

(感染管理認定看護師)

感染症の発病は、原因となる病原体の病原性(毒力)とそれを身体に取り込んだ人の抵抗力(免疫力)とのバランスが関係しています。食中毒やインフルエンザの病原体は健康な人に病気を起こす病原性をもっています。病原性が弱い微生物は健康な人に害はありませんが、ひどく免疫力が落ちている人や高齢者では重い感染症を起こすことがあります。

病原体が人の身体に感染症をひきおこすには、ある程度の量が必要です。食中毒を例とすれば、赤痢菌やノロウイルスで10個、O157などの腸管出血性大腸菌で100個、サルモネラ菌で100万個と差があります。ノロウイルスは少量でも健康な人に容易に病気を起こす毒力をもつのです。また、同じ量の病原体が身体に入っても、成人と比べて子供や高齢者では症状が重いことがあり、感染症の発病が、病原体の病原性と個人の抵抗力のバランスに因ることをよくあらわしています。

感染症の予防は、このバランス関係をふまえると、①感染症を起こす量の病原体を身体に入れないようにすること、②自分の身体の抵抗力を高めること、の2つが考えられます。

ノロウイルスならば、ウイルスを身体に入れないように2枚貝の摂取を避けたり、きちんと加熱調理することが有効な予防法です。ワクチンなどでノロウイルスに対する抵抗力を高める方法はないので、極力身体に入らないよう注意するしかありません。インフルエンザならば、ワクチン接種をして抵抗力を高めることが良い予防法です。個人差はありますが、ウイルスが身体に入ってもある程度の防御が期待できます。しかし、ワクチンだけでは感染を完全に防げないので、流行期は人ごみを避けたり、うがいや手洗いを丹念に行ったり、ウイルスができるだけ身体に入らない方法を心がけ、感染予防を補強します。

医療が進歩して良い抗生物質が開発されても、感染症の病原微生物を永久に屈服させることは不可能です。感染症対策は治療の前に予防が大切なのです。

特集 腫瘍センター



山田 好則(腫瘍センター長) <前列中央>

北里研究所病院は、「東京都認定がん診療病院」に認定されています。腫瘍センター長 山田 好則

東京都がん診療病院の認定は、手術療法、化学療法、放射線療法のがん3大療法に加え、北里柴三郎の精神を受け継いだ予防医学、先進医療の指定を受けている免疫療法、さらには緩和ケア、在宅医療等までも含めた幅広くかつ一貫した当院のがん診療への取り組みが評価されたものです。この認定を機に、当院はがん診療を大きな柱と位置付け、平成21年に創設された腫瘍センターが中心となって一層充実したがん診療の体制を作ることといたしました。具体的には、当院のがん診療の基本方針を、「患者さまひとりひとりの病状や気持ちにも配慮しながら、その時点でもっとも優れていると認められる医療(標準医療)を行うこと」と決めました。来る平成24年4月には、従来の機器を一新して、最新の機能をもった放射線治療装置が導入されることになっています。

従来より、北里研究所病院では、病院理念「心ある医療」のもと、手術等の急性期の診療を中心としながら、予防・検診から緩和ケアに至るまでの医療を行うことを目指してきました。診療科相互の連携と、医師、看護師、薬剤師等多くの職種が一致して患者さまに向き合うチーム医療の精神を私

たちは大切にしています。がんの診療においては、このように病院が一体となって、患者さまとともに病気と向き合うことが特に重要であり、さまざまな治療やケアの場面でこの精神が活かされています。

もっとも大切な治療方針の決定には、最適な医療が患者さまに対して行われるよう、がん診療に精通したがん治療認定医師・がん専門看護師・がん専門薬剤師等からなる検討会が定期的に催されています。また、医師会診療所等と連携して、長期間にわたり地域で患者さまをケアすることができるよう努めています。東京都認定がん診療病院は、日常のがん診療に加え、わが国全体のがん診療の質の向上に貢献することを求められておりますが、当院はこのため、セカンドオピニオンやがん相談を幅広く受け入れるほか、がん登録事業を推進し、また地域の皆さまに向けた講演会や医療者向けの研修会、さらには臨床試験を含むがんの研究活動をこれまで以上に充実させることにより、この重要な社会的使命に応えていこうと考えています。

手術療法 入江 啓(中央手術センター長)

多くのがんにおいて、手術療法がその標準治療になっています。特に、早期発見されたがんに対しては、手術による病巣摘除で根治させることが可能となります。すなわち、がん治療の第一原則は、早期発見・早期治療であります。早期がんに対する手術療法は、低侵襲性(身体への負担の少ない方法)、機能温存(従来ある身体機能を失わない方法)を重視した方法が開発されてきました。その代表的なものが、腹腔鏡や胸腔鏡による手術です。当院では、平成19年に内視鏡手術センター

を設立し、鏡視下手術にかかわる多くの診療科やスタッフが協力し合いながら、安全で確実な手術が行える体制を確立しています。現在、肺がん、消化器がん、泌尿器がん、婦人科がんなどの多くの疾患に対する内視鏡手術が可能となっています。もちろん従来から行われている、開腹・開胸手術(拡大手術)が適応となることも少なくなく、それぞれの病状に合った最適な治療方法が選択されています。

中央手術センターでは、数多くの手術が日々行われていますが、安心して確実な手術を受けていただけるよう心がけています。

放射線療法 矢内原 久(放射線科部長)

放射線療法は、手術療法、化学療法とともに、がんの治療の中で重要な役割を果たしています。

放射線療法の適応は、治癒を目的とした根治的治療から、症状を緩和して患者さまの生活の質を回復、維持する緩和的治療まで多岐にわたります。また手術療法や化学療法等との併用は、より優れた治療効果をもたらします。当院では、患者さまが最適

な治療をうけていただくために、平成24年4月より最新型の放射線治療システムを導入します。新しい放射線治療装置の特徴は、できるだけがん病巣のみに放射線を照射し、周囲の正常組織へ照射される放射線量を少なくすることにより、副作用が軽減され、より効果的ながん治療が行えるようになることです。これは臓器を温存したまま治すことができること、そして通院治療が可能であることなどの放射線治療の長所がこれまで以上に生かされることとなります。

免疫療法 鈴木 幸男(研究部長)

私たちの体には元来、免疫という防御システムがあり、異物を排除する機構が備わっています。最近、私たちの体に発生する「がん」についてもある程度、このような機構があることがわかってきました。これをうまく応用した治療法が「がん免疫療法」であり、がん治療の3大療法に加え、第4の治療法として注目されています。

がん免疫療法は歴史が浅く、発展中の治療法であり、すべてのがんにも効果があるとは限りません。すでに大きくなったがんや、進行の早いがんには、その治療効果を十分に発揮することが難しい場合もあります。しかし、

ある種のがんに対しては延命効果があり、また副作用も少ないことがわかってきました。

現在、当院で行われているがん免疫療法には、血液中のリンパ球を取り出し、ある特殊な方法を用いて試験管内でリンパ球を活性化させて生体内に戻す方法と、自己の腫瘍を用いてリンパ球を活性化させる活性化自己リンパ球移入療法があります。いずれも自由診療ですが、後者は特異的ながん免疫療法として、平成19年に厚生労働省より先進医療の認定を受けました。当院はこれからも科学的根拠に基づいた集学的治療の一環としてがん免疫療法をさらに推進していきます。

緩和ケア 竹下 啓(総合内科部長)

緩和ケアは、がんと診断されたときから始まります。患者さまがよりよく生き、そのひとらしく生活するのに重要なケアです。北里研究所病院では、緩和ケアチームが中心となって、緩和ケアを推進しています。緩和ケアチームは、内科医師、精神科医師、麻酔科医師、東洋医学医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、ソーシャルワーカーなどから構成されており、入院中患者さまを直接担当している主治医チームと連携して活動しています。緩和ケアの対象となるのは、痛みだけではなく、私たちは、

患者さまの気持ちのつらさや、ご家族の事情などにも配慮したケアができるよう心がけています。また、在宅緩和ケアにも力を注いでおり、当院の在宅医療室のみならず、近隣の20以上の在宅療養支援診療所とも連携しており、在宅療養への移行、あるいは、在宅療養中に容体が悪化した場合の支援において多くの実績があります。外来においては、毎週水曜日に緩和ケア相談外来を行っています。どのように緩和ケアを受けたらよいのかなどの相談に、医師と看護師が応じております。

化学療法 大作 昌義(化学療法科部長)

今、化学療法の世界は、急速に様変わりしています。毎日世界で化学療法によって恩恵を受ける人々の輪が広がっており、カレンダーをめくる様に、新しい抗癌剤が生まれ、治療の可能性が豊かになっています。

実は、日本の抗癌剤の歴史は、北里の歴史でもあります。北里研究所の所長であった秦藤樹博士は、抗がん作用をもつ抗生物質のマイトマイシンを発見し、その後の輝かしい歴史を切り開きました。

以前恐れられていた白血病は完治する病気の間入りをしました。そして、今まで効き目がはっきりとは見えづかった固形がんでも、効果が目



秦 藤樹博士

に見える形で示され、寿命が日に日に延びています。手術前の抗がん剤の投与で胃がんが縮小したり、大腸がんの肝転移が縮小して、それぞれ根治切除が可能になります。また、肛門近くの直腸がんが縮小して人工肛門にならずに済み、乳がんでは、乳腺の温存手術が可能になるなど、化学療法の恩恵を受ける事ができる時代に、我々は生きているのです。当院では、これらの治療が、効果的にかつ安全にできるように、風通しの良い大きなチームを作って、がんの征圧と共に皆様の健康の増進を願いつつ、日々努力しております。



大作 昌義
(化学療法科部長)

局所療法 中野 雅(内視鏡センター長)

手術、放射線療法を除くがん局所療法としては、消化器がんの内視鏡治療がまず挙げられます。検診の普及で早期発見が進んだ胃がんなどに対しては内視鏡的粘膜切除術(EMR)の他、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)がここ数年で普及し、数センチ大の病変でも切除が可能になりました。肝臓がんに対しては、病変の個数や大きさなどに応じてラジオ波焼灼療法(RFA)、経皮的エタノール注入療法(PEIT)、肝動脈化学塞栓療法(TACE)といった治療法が選択されます。RFAとPEITはエコーで確認しながら経肝臓的に病変に対して針を挿入し、熱やアルコールによりがんを壊死させる

治療法です。TACEは放射線科医が脚の付け根の動脈から肝臓の病変までカテーテルを挿入し、抗癌剤と塞栓物質を注入する治療法です。

以上に加え、内視鏡はがんの症状緩和にも応用されます。膵がんや胆管がんでは黄疸のある症例に対して、閉塞した胆管にステントを挿入して黄疸を軽減したり、膵がんの十二指腸浸潤、食道がんや直腸がんによる狭窄に対する金属製ステントの挿入により、通過障害の改善を図ることもできるようになりました。



中野 雅
(内視鏡センター長)

がん相談 荻原 修代(看護師長/がん看護専門看護師OCNS)

がん相談窓口では、院内と院外のがん患者さまとそのご家族、地域にお住まいの方及び医療機関等からのご相談を承っております。がん相談窓口を担当する職員は、多職種で構成されています。看護師、ソーシャルワーカー、医療連携担当の事務職、医師、薬剤師、管理栄養士等です。適切な職種が、ご相談の内容と一緒に考えてまいります。

がん相談(平成22年度は246件)の4割が患者さま自身、5割がご家族からのものです。他の医療機関におかかりの方からのご相談が約半数を占めています。ご相談内容は多岐にわたります。

す。おもな内容は、先進医療等の治療に関するもの、症状や治療の副作用に関するもの、在宅医療や緩和ケア、介護に関するもの、医療費や就労に関するもの、精神面に関するもの、医療者・患者さま・ご家族の間のコミュニケーションに関するものなどです。

ご来院の場合は、病院1階総合案内カウンターにお声かけください。お電話の場合は、03-3444-6161(代表)におかけいただき、交換手に「がん相談窓口」とお伝えください。祝日を除く月曜日から金曜日:9時から17時の間でお受けしております。



荻原 修代
(看護師長/がん看護専門看護師OCNS)

患者さま
ご家族



竹下 啓
(総合内科部長)



▲11月14日(月)青く光る東京タワー



▲白金タワー外から中を見た様子



▲院内ディスプレイより



▲血糖測定・専門医師相談(白金タワー内にて)

みなさんご存知ですか? 11月14日は「世界糖尿病デー」に指定され、世界各地で糖尿病の予防、治療、療養を喚起する啓発活動が毎年行われています。当院でも『糖尿病フェスティバル』と題し、事前に院内広報活動(1階玄関付近にパネルの展示や糖尿病に関するビデオを放映)を3日間行い、最終日の11月11日には近隣の皆様にも利用しやす

『糖尿病フェスティバルを開催しました』

いよつ、白金高輪駅付近にあります白金タワーに場所を変え、血圧・血糖測定及び糖尿病専門医による相談を設けました。当日は雨風が強く、また気温も低いことから利用者数は伸び悩みましたが、それでも44名の方の参加をいただきました。(総務課)

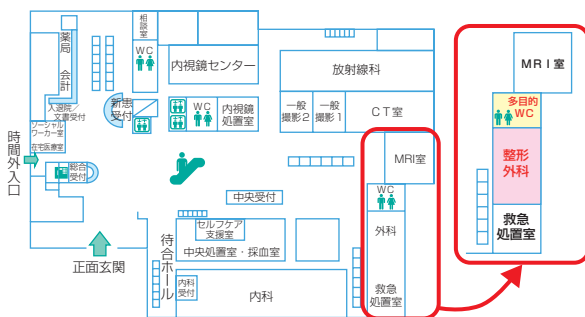
『外来の移設について』

新年1月10日(火)より左記の通り診療科の場所が変更になります。また、今回の移設に伴い、1階のトイレを多目的トイレに改装し、オストメイトの方や乳児のおむつ交換等が利用できるようにいたしました。

- 1階から2階へ
 - ・ 外科外来
 - ・ 消化器内科外来
 - 「胃腸センター」
 - 「肝センター」
 - 2階から1階へ
 - ・ 整形外科外来
- (総務課)

《変更前》

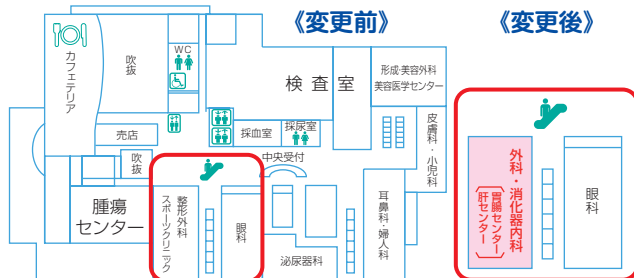
《変更後》



1階フロア

《変更前》

《変更後》



2階フロア

行事予定

○「がん」について語るつどい
開催日 平成24年1月14日(土)
★無料です(予約制)
対象 10時00分~11時15分
内容 当院を受診されている患者さまとそのご家族(外来・入院問いません)。
場所 4階ABC会議室
講師 腫瘍センター長 山田好則
申込み方法 03-5791-6345(予約センター)

○加齢変化をぶっ飛ばせ!!
『知っておこう運動器疾患』
開催日 平成24年1月21日(土)
★無料です(予約制)
対象 14時00分~17時00分
内容 どなたでも参加できます
「骨粗鬆症・ロコモティブ症候群・背骨と下肢の変形性関節症など」
場所 北里大学薬学部ベンチンホール(北里研究所病院隣り)
講師 人工関節センター長 月村泰規 他多数
申込み方法「お名前」ご連絡をお願いします
03-5791-6143(総務課)

○ロコモ教室
開催日 平成24年3月19日(月)
★資料代:1,050円
対象 14時00分~15時00分
内容 どなたでも参加できます
①ロコモとは ②骨粗鬆症 ③骨と関節の加齢変化 ④ヒアルロン酸 ⑤骨粗鬆症を予防する食事 ⑥トレーニングとその実際
場所 スポーツ医学センター医 阿部均・管理栄養士・トレーナー
申込み方法 03-5791-6345(予約センター)

○生活習慣病教室
開催日 平成24年3月10日(土)
★無料です
対象 10時00分~11時30分
内容 どなたでも可能軽い運動があります(受動喫煙と健康)
場所 3階セミナー室
講師 呼吸器専門医 鈴木幸男
業剤師・運動指導士
問い合わせ先 03-5791-6146(予約センター)

平成24年10月31日付
内科レジデント
小林 祐子(こばやし ゆづこ)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。
今年は辰年ですね。私は辰年の生まれですが、自分の干支の意味を知らなかったため、辰年の「辰」という字を調べてみました。「辰」は本来「しん(振・震の意)」と読み、「漢書律歴志」では「動いて伸びる」「整う」という意味で、草木が盛んに成長し形が整った状態を表すと解釈されているようです。十二支の意味をそれぞれ調べていくとおもしろそうですね。



本年も「つくしんぼ」編集部一同、より充実した紙面づくりに努力してまいります。
つ(く)し(ん)ぼ(う)お(願)い(致)し(ま)す。
(福丸)

つくしんぼ第一五九号
平成二十四年一月一日発行
北里大学 北里研究所病院
東京都港区白金五-9-1
TEL (三三四四) 六-六六一
編集発行責任者 田中正貴
URL <http://www.kitasato-u.ac.jp/hoken-ho/>
皆様の「意見」をお待ちしております。